

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800096	事業の開始年月日	平成20年2月1日
		指定年月日	平成20年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑折本会		
事業所名	グループホーム 蘭寿しらかし		
所在地	(〒224-0043) 神奈川県横浜市都筑区折本町1373-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りには、畑・竹やぶが多く 自然に囲まれています。散歩では道で会う近隣の方に挨拶をして日々の交流に努めています。正月の獅子舞や夏祭りに参加したり、お祭りの神輿・山車が施設まで来てくれて、地域の方との交流を大切にしています。数回の「らんらんコンサート」と称したボランティアの方の演奏会があります。演奏に合わせて歌い楽しい時間を過ごしています。また春には花見・ひな祭り、夏は七夕・夏祭りに参加、秋は敬老会、冬はクリスマス・お正月と季節の行事も大切にしています。

お誕生日会では、お弁当注文したり外食をしてお祝いしています。“利用者本位”の理念の下、職員目線の介護の押し付けにならないよう、何が利用者様にとって本当に必要なことかを、ご家族様を交えて職員皆で考え、施設全体で統一ケアに向け取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成31年1月28日	評価機関 評価決定日	平成31年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇「利用者本位」の理念に基づき統一ケアの実践 利用者の持っている能力を最大限に生かすため、「利用者本位」の理念に沿った自立支援の介護計画を立案し、職員は“今しなければいけないこと”を最優先してケアに当たっている。介護計画のサービス内容を「統一ケア個別対応表」で、より具体的に表し、職員は常にプランを念頭にケアに努めている。</p> <p>また、日々の介護記録をパソコンに入力することで、記録の統一も図られている。</p> <p>◇職員が活動しやすく風通しの良い職場環境 勤務歴の長い職員が多く、利用者や家族から厚い信頼を得ている。職員は資格取得の意欲が旺盛で、約6割の方が介護福祉士の有資格者である。法人もまた、資格取得をバックアップしている。職員は日常の業務の中で、様々な意見や提案をし、会議でも意見を活発に述べている。管理者は常に、職員の提案や意見に耳を傾け「まずはやってみよう」と、提案を受け入れて実践に努めている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇利用者との職員協働による貼り絵の作成 各ユニットの共用空間の壁面には、利用者との職員が共同で制作した四季折々の大きな貼り絵が掲載されている。折り紙や絵が得意な方だけではなく、利用者全員がアイデアを出しあい、職員の助けを得ながら製作を楽しんでいる。作品は、面会の家族などホームを訪れる方をも楽しませている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム蘭寿しらかし
ユニット名	しらかし①

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位という理念を職員全員で共有し実践しています。入職時にはオリエンテーションを実地し、理解を深めています。	・職員は、理念の「利用者本位」に沿い、利用者の思いに寄り添い、“してあげたいではなく、しなければいけないこと”を最優先にして、日々のケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで、近隣の方と笑顔で挨拶を交わしています。自治会の盆祭りや獅子舞などに参加し、こども110番の協力を行なっています。又近隣の入居者様のご家族様がレクリエーションのボランティアに来てくださる事もあります。	・自治会に加入し、地域の行事に利用者は、職員と共に参加している。散歩で出会う近隣の方と挨拶を交わし、農家の方からは野菜や花を貰っている。 ・利用者の家族や知人が、ボランティアで演奏や歌のレクリエーションに訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	盆踊り、お神輿等の地域の行事に参加しています。“こども110番”に登録しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催しています。地域の方々との意見交換を行い地域資源の活用が出来るよう努めています。	・2か月ごとの会議には、町内会副会長、地域住民、民生委員、保健活動推進委員、地域包括支援センターと区の高齢・障害支援課職員、利用者と家族が参加している。 ・会議では、事業所の活動内容報告後、参加者から介護保険制度の質問等で意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議・ブロック会等で担当者から連絡を受けています。	・管理者や職員は行政主催の感染症予防対策の講習会や、区消防署主催の福祉施設対象の防災講習会などに、積極的に参加をしている。 ・グループホーム連絡会では、行政の職員と顔のみえる関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などで身体拘束を行わないように職員間で情報を共有しています。また見守りを徹底し安心して生活をしていただける様に努めています。	・職員は、身体拘束廃止に関する指針を内部研修で学び、スタッフ会議で検討して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は家族の理解を得て安全のため施錠している。 ・「身体拘束適性化委員会」は3か月ごとに開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中や会議等で、職員同士話し合いをし虐待の定義について考え防止する様に努めています。また、虐待についての勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を学ぶ機会が取れず活用できていません。今後のユニットで、権利擁護についての勉強会の機会を設けて行きたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族様に対して口頭にて分かりやすく説明を心がけています。また、書面での確認を取り、理解・納得の上で同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とその家族とは、普段より電話・面会にてコミュニケーションを取り、ご意見、ご要望を伺っている。ご意見・ご要望は会議にて話し合い、職務に反映させている。月末には月の様子をお手紙として送っています。	・家族の意見は行事や面会時、介護計画の更新時に聞いている。 ・毎月、利用者の様子を手紙に写真を添えて送る際、家族からの意見や提案を求めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議前に職員より議題の意見収集を行い、会議にて提示された職員からの意見・提案・改善策等を職務に反映させています。又、会議以外にも職員から話を聞き、意見を反映させています。	・毎月のユニット会議で、ケアプランや利用者の個別対応の問題点などを話し合っている。 ・会議で業務改善や必要な物品購入を、職員が提案している。利用者の食事開始時間を少し繰り上げ、職員の休憩時間を確した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から、役職者、職員等から現場職員の勤務状態の報告を受け、職員の勤務状況の把握に努め、人事考課に活かしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に利用者様の介護方法など施設内研修を行なっています。また、初任者研修など受講する機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修などで他のグループホームで学ばせていただき、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っている事の背景を理解し状況を把握した中で、第一には「利用者本位」である事を考え職員全体で考え共有化し、利用者との信頼関係を築ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの、経緯やそのご家族様の苦悩などを受け止め、入所後は、ご家族様の不安や心配事を少しでも軽減出来る様に、連絡・報告をこまめに行い、信頼関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントで利用者やご家族の意見・要望を考慮し、他業種（リハビリ、マッサージ、歯科等）も活用出来る様に支援を調整しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に、家事（掃除・洗濯・献立作り等）等を行い、保有能力を活かした自立支援を行う一方、人生の先輩としてのアドバイスを頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族との信頼関係関係の構築や、要望を知る良い機会であり、ご家族様の協力が得られるように細かく話し合い情報交換をし共有しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、ご家族以外の来訪は少なく馴染みの人達との交流は築けていません。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの人の訪問時は、居室で歓談している。手紙の投函や電話の取次ぎなど、入居前からの友人との関係継続を支援している。 ・掃除や調理の手伝いなどの家事、好きなテレビ番組の時間を伝え、利用者の入居前からの生活の継続を、支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の性格や利用者同士の関係性に留意し、円満な関係が保てる様に支援しています。又、孤立しない様に職員が間に入り、互いに親しみやすい雰囲気を作るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要であれば、いつでも連絡いただけるような体制作りを目指しています。又、ご家族と相談したうえで面会なども行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「利用者本位」のケアが出来るように、又その方らしく過ごせるように、本人・御家族・職員から情報・状態を聴き、その上でケアカンファレンスを行っています。	・職員は利用者との日常の会話や行動表情から、思いや意向を汲み取っている。家族来訪時に聞く、本人の生活歴も参考にしている。 ・自分から思いや希望を伝えにくい利用者には、1対1の入浴時に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より、ご本人やご家族から情報を収集し、生活歴等を把握した上で、ケアに努めています。会議にて職員に入所の経緯や生活歴などの説明をし情報の共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活を記録し、現状を把握できるようにしています。又、申し送りやカンファレンスを通して、その日の心身状況や特変事項等の把握に努めています。個別対応マニュアルを作成し職員が共有しやすいようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン以外に、統一ケア個別対応表を作成しており、変化に応じてその都度、見直しをしています。緊急性がある場合は、直ぐにカンファレンスを開き話し合いを行なっています。	・介護計画は、1～3か月で見直している。「統一ケア個別対応表」にサービス内容を記載し、業務日誌に日勤、夜勤別にバイタル、排泄、特記事項を記入している。 ・日々の介護記録は、PCに入力し、毎月のカンファレンスでモニタリングして、通常6か月で計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に毎日の様子を記録をしている。変化や特変事項は、申し送りや連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化をしっかりと把握し、より良いケアを行なう為に、その都度プラン変更の見直しをし、ケアマネや他業種と連携を取っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や町内会との連携は取っています。まだまだ地域資源を活用しきれない事の方が多いので、今後活用していけるよう取り組みたいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関との24時間連携体制ができています。又、1週間に1回の訪問看護や、2週間に1回の、内科の定期往診を実施し、医療面の支援が行なわれています。心療内科、皮膚科、歯科、往診体制も整えています。	・家族の希望で、従来のかかりつけ医への継続受診を、支援している。 ・協力医が2週間ごとに、皮膚科医は受診希望者に月1回、歯科医が月2回往診する。 ・医療情報は連絡ノートとPCの個人記録へ記録し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を毎週報告し、看護師より適切な看護が受けられるように体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、電話・書面・訪問にて利用者の状態について医療機関との情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化や終末期の説明を行い、実際の対応準備は主治医等とご家族様との相談の機会を設けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に、看取り指針を説明し、利用者の延命治療の是非についても確認している。 ・重度化した場合は、医師の診断に基づき家族に説明し、病院への搬送を含めて家族と話し合いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、利用者の急変時や重度化の増加に備え、職員研修を継続して行い、終末期ケアに対する方針を、共有することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より、救命救急の蘇生法やAEDの使用方法などの学習、講習を受けている。AEDの使用方法のマニュアルに関しては、常に職員が観られる場所に置いています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、防災避難訓練を実施しています。地域との具体的な協力体制の確立までには至っていません。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練は夜間想定を含め年2回実施、月1回は消防署への通報の自主訓練を行っている。 ・訓練は地域の協力を得て、隣接事業所と合同で実施している。 ・非常用の食料と水は3日分強備えている。備品を含めてリストを作成して管理している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を忘れずに、尊敬の心を持ちケアを行っています。又、声掛けには十分注意し、誇りやプライバシーを損ねない様になっています。	・「利用者本位」の理念のもと、職員は入所前のアセスメントで、利用者の理解に努めている。 ・利用者の思いを受けとめ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの意見や思いを尊重し、できる限り選択肢を用意し、本人の希望に合う様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、行なわなければならないケアも行いながら、本人の希望や生活パターンに出来るだけ沿うように支援し、その人らしさを保てるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や、髪型など希望を取り入れながら、その人らしさが日々の生活の中で表現できるように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを伺いメニューと一緒に決めています。(週2日)。又、配膳や片付けを職員と一緒にして頂いています。	・利用者に好きな食べ物や誕生日に食べたいものを尋ね、毎週木曜と金曜日の朝食と昼食は、利用者の好みの献立を提供している。 ・利用者は職員と一緒にテーブル拭き、お盆出し、下膳、食器拭きを手伝い、誕生日はケーキを提供し祝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた摂取量などを把握した上で提供しています。又、常に食事、水分と記録をし確認をする事で状態変化などに気付くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持が出来るように、毎食後に必ず実施しています。介助が必要な方には、出来るところまで行なって頂き、残りの部分は介助を行っています。又、歯科往診による口腔ケアも行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の個々の排泄状況を把握し、排泄パターンやその時の行動を観察して、適切な声掛けと誘導を行い自力で排泄出来るように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表から、一人一人の排泄パターンを把握し、その人にあった言葉かけで、トイレ誘導や支援をしている。 ・自立している利用者が3分の1、他の方はケースに合わせて、本人に無理のない対応をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂取して頂いたり、乳製品や食物繊維の多いものを提供したりと個々に合わせた排便のコントロールを促しています。又、往診医と相談して下剤等の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日々、声掛けを行い出来る限り希望に沿えるように対応しています。又、入浴剤等を使用し楽しんで入浴できるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は基本的には2日に1回で、一人一人の体調や状況を見て声をかけている。利用者の気持ちに寄り添えるよう、相性や同性介助で支援している。 ・菖蒲湯やゆず湯なども、楽しんでもらっている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調を把握し適度な休息をして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず職員2人で確認行っています。服薬後は利用者様の状態変化に気を付けています。状態の変化があった時は往診医に連絡を取り指示を受けています。服薬の内容を職員各自が把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、塗り絵、歌、花札など、利用者の趣味や好きな事を理解し、利用者がしたいと思う気分転換の支援が出来るようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、利用者の個別の希望に沿える外出支援は出来ていないが、気分転換を図る為に、1～2か月に一度、一緒に買い物・食事などに出かけています。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日には、事業所の周りや野菜畑、近くの大熊川の川沿いを少人数で散歩している。春には東方公園の桜や、川和駅近くの菜の花畑に出かけている。 ・玄関前のベンチやベランダで外気浴をする方もいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人での金銭管理は、トラブルの原因にもなるので行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、職員がご家族様に連絡し本人が電話に出れるよう支援しています。手紙のやり取りは常時行っています。又、ご本人様やご家族様の要望があれば、携帯電話を持つこともできます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に温度・湿度の調節に気を配り、利用者にも快適度を確認しています。廊下やリビングでは、入居者と一緒に作成した折り紙や張り絵などを飾り、四季折々の季節感を取り入れています。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは清潔で明るく、床暖房が施され、職員は温度・湿度にも留意している。台所と食卓、ソファのコーナーを設け、家庭的で落ち着いた空間となっている。 ・利用者と職員が合作した四季折々の貼り絵を壁に飾り、季節感を演出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具類等は、利用者が入居前より使用していた物や好みの物を使用し、家族との写真や、好きな本、テレビなどを置いています。居室での時間を、落ち着いて快適に過ごせるような環境作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類等は、利用者が入居前より使用していた物や好みの物を使用し、家族との写真や、好きな本などを置いています。居室での時間を、落ち着いて快適に過ごせるような環境作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室はエアコン、クローゼット、タンス、防炎カーテンを備え付けてある。 ・利用者はベット、机や椅子や仏壇を配置し、家族の写真や誕生日のメダルを飾り、居心地よい居室になっている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備や清掃、食事準備など、各利用者の保有能力に即した自立支援と環境作りを行っています。		

事業所名	グループホーム蘭寿しらかし
ユニット名	しらかし2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位」の理念を常に考え、利用者様が安心・安全な生活が送れるよう職員間で情報を共有・理解をしてケアに努めています。入職時にはオリエンテーションを実施して、理解を深めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りや獅子舞、お神輿など行事に参加しています。「こども110番のいえ」の協力を行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の方へ利用者様の状況や支援方法など伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。地域の方々との意見交換や行事等の情報を聞き取り、地域資源の活用が出来るよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議・地区のブロック会などで担当者から連絡を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などで身体拘束を行わないように職員間で情報を共有しています。また見守りを徹底し安心して生活をしていただける様に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待・言葉の暴力など間接的な虐待が見過ごされないよう職員同士声を掛け合い日々防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権威養護の制度を学ぶ気概が取れず活用できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時や契約時にご家族様へ入退去について説明を行っています。その他疑問点についてもその都度説明を行って不安が無い様に職員が対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とその家族とは、普段より電話・面会にてコミュニケーションをとり、ご意見・ご要望を伺っています。ご意見・ご要望は会議などで情報を共有し日々の支援に反映されるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より議題の意見収集を行い、会議にて提示された内容を職員同士意見・提案・改善策など話し合い職務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握していると思いますが、実績や昇給の評価基準がありません。職員は利用者様が不満を少しでも取り除けるようケアに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に利用者様の介護方法など施設内研修を行なっています。また、初任者研修など受講する機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修などで他のグループホームで学ばせていただき、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様から要望・意見など集めアセスメントを行なっています。利用者様とのかかわりを大切にして要望を聞き、安心して生活できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話、ケアカンファレンスなどご家族とコミュニケーションをとり、関係を密にしてご家族の不安がないように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状や先々の事を考え、ご家族様とコミュニケーションを通じ、現在必要なサービスに対して職員間で情報を共有しケアに努めています。また24時間生活シートを活用して日々の支援を見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食事・掃除・洗濯など各利用者様の出来る範囲を見極めながら自立支援を行なっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連携を密にして何でも言える関係を築けるように努めています。また毎月近況をお知らせする手紙を送付しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族様以外の面会者は、ご家族様から情報収集を行い慎重に対応するよう努めます。利用者様が友人との交流が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や関係性に気をつけながら円満な関係が保てるよう支援しています。職員がレクリエーションなど楽しく過ごせるような雰囲気を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も関係性を大切にしながら、必要に応じて相談など、連絡してもらえるように声掛けをさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「利用者本位」の理念の下、利用者様にとってどのような事が望ましいのかを考え、利用者様・ご家族様の希望・要望に沿うよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集を行い今までの生活様式・馴染みの品々を可能な限り持ち込んで頂きグループホームでの生活に充実感を持って頂くようにしています。入所の経緯などユニット会議の時に職員に説明を行い理解を深めるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活を記録しを行い現状把握できるようにしています。また朝と夕方の申し送り、連絡ノート・業務日誌などから心身状況・特変事項などの情報を職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を行い、職員の意見・提案事項などを話し合い利用者様の状況把握に努めています。また毎月職員から利用者様のモニタリング実施しています。ご家族様とのケアカンファレンスを行い意見などを介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・連絡ノートなどを活用し情報の共有をして業務に遂行しています。また情報交換を行い介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で情報を共有する事で利用者様の日々の変化をしっかりと把握し、より良いケアを行なうよう努めています。必要に応じて、訪問マッサージの利用や通院の支援を行なっています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かし、利用者様が安全で豊かな暮らしができるよう努めます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の医療機関とは24時間連携体制が出来ています。月2回の神経内科往診と歯科往診、月1回の皮膚科往診で、利用者様の健康状態を報告しています。特変があればその都度往診医に連絡しています。入居前のかかりつけ医にも受診できるよう対応しています。また利用者様・ご家族のご希望があれば他の医療機関の受診して頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護があり、利用者様の健康状態を報告して適切な指示を受けています。また、体調不良の方が居た時は往診医へ連絡を取り適切な処方をして下さります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医が適切な病院を紹介して下さいます。入退院時は面会・電話連絡にて、病院関係者・ご家族様との情報交換や相談を行い早期退院に向けて努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針については、事前に医師・家族・職員間で話し合い、利用者様にとってより良い居場所など検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応方法マニュアル」が常に職員室に掲示して、迅速に対応出来るよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣の棟と合同の避難訓練も行なっており、迅速に対応出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心を傷つけないように対応しています。利用者様の言葉に傾聴し言葉掛けにも細心の注意をしています。人生の先輩と言う事を忘れず尊敬の心を持ちケアを行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見や思いを尊重し、出来る限りの選択肢を用意し自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念「利用者本位」に基づき利用者様が何をしたいかを考え一人ひとりの希望や生活パターンに沿った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりのご希望に合った身だしなみが出来るように支援しています。また2か月に1回訪問理美容があります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月行事を企画し利用者様に食べたい物を伺い食事・おやつに取り入れています。また無理のない範囲で片付けや洗濯物を畳んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた摂取量を把握して提供しています。また摂取量・水分量などを記録し確認する事で利用者様の体調の変化に気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっていただいています。介助が必要な方には出来るところまでご自分で行なっていただき、出来ないところは職員が介助しています。また、希望者には歯科往診の支援もしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを読み、出来るだけトイレで排泄できるように、声かけして誘導を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた排便コントロールを行っています。便の状態も観察して往診医と相談し薬の調整をしています。また散歩や毎日ラジオ体操を行い身体を動かして頂くよう努めています。水分（飲むヨーグルト・野菜ジュース）をこまめに摂取しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調や状況に応じて希望に添うように臨機応変に対応を行なっています。体調に留意して入浴を楽しめ且つゆっくりと過せるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムや体調を把握し安心して気持ちよく熟睡できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず職員2人で確認行っています。服薬後は利用者様の状態変化に気を付けています。状態の変化があった時は往診医に連絡を取り指示を受けています。服薬の内容を職員各自が把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・体操・散歩など利用者様の好きなことが出来るよう支援しています。また何がしたいのか希望を聞き取りも行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出支援は、買い物等は一緒に出掛けていますが、お墓参りなどはご家族様にも協力してもらっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人での金銭管理は、トラブルの原因にもなるので行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、職員がご家族様に連絡し本人が電話に出れるよう支援しています。手紙のやり取りは常時行っています。又、ご本人様やご家族様の要望があれば、携帯電話を持つこともできます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるよう心掛け室温も適温であるように努めています。廊下やリビングの壁には、折り紙で季節感を出しを飾っています。行事の写真も張り出してご家族様・ご友人に見て頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が不快な気分にならないよう、職員が気を配り声掛けをするなど居心地よく過ごしていただけるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居前に使用されていたものを使用したり、作られた作品や写真を飾り落ち着いて過ごしていただけるようしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き・片付け・洗濯物畳など出来ることはお手伝いしていただいています。室内の場所にわかりやすくシールを貼ったりし安全に生活をしていただいています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム蘭寿しらかし

作成日 平成31年3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防犯対策：立地上施設を囲む壁を作ることができない。そのための防犯対策、職員の意識付けをする。	施設の防犯対策、鍵の施錠方法など見直し、研修や勉強会など開催し、職員へ情報の共有、意識付けを行う。	ユニット会議等で勉強会を行い、防犯対策についての情報を周知し職員間で共有する。また、実践につなげていく。	12か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。